

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2890600063		
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター神戸西代 1階さくら		
所在地	神戸市長田区西代通4丁目7-1		
自己評価作成日	平成25年1月7日	評価結果市町村受理日	平成25年4月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/28/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=2890600063-00&PrefCd=28&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪府北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成25年2月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者が地域で地域住民として住んでいただけるよう、買い物等の機会を通して知り合いを増やせるよう支援している。スーパーでも声をかけていただいたり、散歩の途中で庭の花を頂いたり、戸崎通公園の花の植え替えにもお手伝いに行く支援をしたりして、地域との交流を増やす努力をしている。ホーム周辺の落ち葉の掃除や草抜き、花の水遣り等を通して、近所の子供と挨拶を交わしたり、役割を持って過ごしていただく努力をしている。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所では、町に暮らすと、誰にもわかりやすい理念を掲げて利用者の地域での生活を大切に支援しています。地元の商店での買い物や心掛け、米屋、薬局、またプリンター用の植栽は近隣の植木屋で相談しながら選び、利用者は今までの理美容院に出掛け様々な小さな交流があちこちで培われています。教育の一環として小学校や中学校の生徒の体験学習を受け入れ、其々の学校の子どもたちから感想と感謝の声が届き、利用者の喜びとなっています。職員は利用者の出来る事を見つけ、思いを汲み取ることが心掛け介護計画に反映し、日々の支援に活かしています。利用者は節分行事に自分の寿司をそれぞれが巻いたり、地元の散歩や買い物で幼馴染と出会い、町で生きる理念に沿った生活が営まれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「町に暮らす」という理念の下、近くの花屋で花を購入したり、床屋を利用したり、スーパー、薬局と近くの店に出かけて交流を図る支援をしている。	事業所理念を町に暮らすと謳い、地元との付き合いを大切にしながら、利用者の地域での暮らしの継続を支援しています。新任研修も含め職員に理念の意義を伝え実践に結びつけ、日々の支援を振り返り意識づけています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	できるだけ近くの店舗を利用するようにし、入居者と買い物に行くことで顔を覚えてもらっている。	公園の花の入れ替えや老人会のふれあい喫茶など地域の行事に出掛けたり、近隣の米屋、薬局、園芸店などで買い物をする中で多くの交流があります。小、中学校から体験学習の受け入れがあり、子どもたちから礼状が来るなど暖かな交流が育まれています。事業所では夏祭りが企画され多くの参加を得ています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホーム利用の方でなくても通りがかりで相談に来られる方もおられ、介護保険サービスの利用の仕方や施設の違いなどを説明したりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	他事業所にも参加していただき、対応方法等について意見を伺ったりアドバイスを頂いている。	会議は事業所の報告がなされると共に地域情報を得る機会ともなっています。地域のイベント情報を基にふれあい喫茶や公園の花の入れ替えなどへの参加に繋がっています。参加される同業者との交流やアドバイス等があり、参加者全体にとって有意義な会議となっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	電話で分からないことを問い合わせたりして、適正なサービスが提供できるようにすると共に実情についてもお知らせしている。	質問や介護保険上の問い合わせ事項など、気軽に連絡を取る機会を持っています。区のグループホーム連絡会にも市の職員の出席があり、情報のやり取りの中で協力関係が構築されています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について高齢者虐待の研修の中で、しないケアを目指せるよう取り組んでいる。	毎年度身体拘束についての研修がマニュアルを用いてあり、言葉による拘束も含めて職員の理解を得ています。日中玄関は開放していますが、ユニット間の施錠がなされています。職員は利用者に出かけたい様子があれば、同行し寄りそうようにして拘束間に繋がらないようにしています。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないよう注意を払い、防止に努めている	ホーム会議で研修を行い、通報先も玄関に掲示している。	入職時や年に1～2回は虐待の防止について勉強の機会を持っています。職員のストレス軽減に努める中で落ち着いたケアの実践を心がけ、ユニットリーダーが中心となって職員や利用者への介護に気配りをしています。	

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者に後見人が付いておられる方もおられ、身近ではあるが、権利擁護に関する制度として十分に理解できているとは言えない。	何人かの利用者が後見人制度を利用されており、資料による情報提供の体制があります。事業所内でも勉強会を行い、職員に制度の理解を促すとともに利用者の状況を伝えています。担当される後見人の弁護士や司法書士と情報交換し、利用者の状況を伝え意見を交わしています。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、重要事項説明書を元に充分時間をかけて説明、疑問点にはお答えし、理解、納得していただいている。	契約時には事業所に来て頂き、言葉をかみ砕き契約内容などを説明し、納得の得られるようにしています。また改定がある場合には家族会を開催し、時間を取り理解頂くと共に欠席者には資料を配布し理解を得ています。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置している。定期的に出して運営に反映させている。	家族会があり、意見箱にはたまに意見が入っていたり、また来訪時や電話などで意見を聞いています。洗濯物の入れ間違いの意見に対して速やかに整理箱を設置したり、毎年行われている満足度調査で出された意見等も、職員間で改善報告で話し合っています。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム会議で運営について意見を聞き、反映させている。	毎月の職員会議は活発に意見や提案が出され、任務分担についての提案があり、職員間で話し合い具体化しています。また日々の支援の中や日報などでも、業務改善などの意見が出され、ユニットリーダーから管理者に伝えるなど、サービスの向上に活かせるようにしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアアップ制度を利用し、同社他サービスも含め希望があれば他事業所への異動も可能としている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	支店内で研修会があり、それをホーム会議で落とし込みを行なっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月、同社内の他事業所と交流の日を設定している。		

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時ご家族の困り事、ご本人の困り事をアセスメントし、対応策を考えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時ご家族の困り事、ご本人の困り事をアセスメントし、対応策を考えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービスを利用した方がよいと判断される時には、情報提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できる限り仕事を一緒にしていただく事で「ありがとうございます。」と感謝の言葉を伝える機会を増やすよう心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に対応していただいた方が良い場合は率直にお願いし、手伝っていただいている。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人やご家族の訪問をもてなし、自分の店の訪問や地域の交流の場での出会いの機会を大切にしている。	地域の商店街等で買い物の途中で幼馴染に出会ったり、馴染の理髪店や美容院を利用される等、今まで通りの馴染の地域での暮らしが出来るよう、地元の交流を大切に支援しています。友人や知人の来訪もあり、話が弾むよう同席したり、寛げるように支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが間に入ることで利用者同士の会話の機会の時間を持つよう心がけている。		

自己 者	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	次のサービスへの支援と共に、退去後も可能な限り、情報を得て見守っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できる限りその人の思いに添えるよう、ホームとしての努力もしている。	入居に当たって、家族から得た家族構成や生活歴、習慣や趣味等の情報を基に暮らしへの思いを聞いています。思いの把握が難しい場合などは、食事介助時や日々の支援時に話された言葉や表情で意向を推し量り、職員会議などで話し合っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時にご家族やご友人に聞き取りを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式のアセスメントシートを使用し、できる事できない事を見極める努力をしている。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング・アセスメントを実施、サービス担当者会議で話し合い、家族にも意見を聞く等して介護計画を作成している。	アセスメントを基に、初回の暫定1ヶ月の介護計画は作成され、計画の作成に当たってはサービス担当者会議を開催し、家族の意見を聞くと共に職員の意見を反映し、医療的な分野では医師や看護師の情報も反映されています。3ヶ月ごとにモニタリングを行い、モニタリングに当たっては、全職員が意見を出し合い見直しに繋がっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に記録、指導すべき事は管理日誌で情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限り、ご本人や家族の状況に応じて、家族が対応できない場合は事業所が対応する等柔軟に支援している。		

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域イベント・ふれあい喫茶に参加したり、買い物同行をしたりしている。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医との契約もおすすしめしながら、ご本人や家族の希望にも充分配慮し、医療連携の支援をしている。	入居時にはかかりつけ医の希望を聞いていますが、月2回の往診があったり、緊急時の連絡や24時間の連絡が可能などの利便性から多くの利用者が事業所の協力医に変更されています。歯科による口腔ケアや皮膚科など必要な方には往診の体制があります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	まず訪問看護に連絡・相談し、受診、看護を受けられるように支援している。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中に家族の役割を代行できるように支援している。	救急搬送の場合は職員が同行し、介護サマリー等情報を家族に伝達しています。入院中には管理者はじめ職員が見舞い利用者を支えています。退院後のリハビリを習得する等、職員は退院に向けた知識を習得し、利用者の安心に繋げています。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期について、訪問看護で対応できる事を限界とし、入所時に説明、次の施設や病院へつなぐ事を支援している。	入居時には医療が常時必要な場合は事業所での生活が難し等伝えていきます。重度になられた場合や入院後の対応等、利用者の状況に合わせて他施設の紹介をするなど利用者のより良い生活に向けた対応を心がけています。重度化の中で、家族とは話し合いを重ね、時々の状況に応じた支援をしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1回以上、急変時・事故発生時の応急手当や初期対応訓練をホーム会議で行っている。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時対応、避難できる方法をホーム会議で全職員が身につけられるようにし、地域の避難場所に協力体制をお願いしている。	年2回昼夜を想定した避難訓練を行っています。避難経路や誘導手順、消火器の扱い等テーマを決めて行い、職員の習熟を目指しています。運営推進会議には避難訓練の実施を伝えていますが、声掛けには至っていません。	年2回の訓練をされていますが、近隣や地域の方々には訓練に参加の声掛けをされているのでしょうか。定期的な訓練の実施を知っていただいたり、また地域の訓練への参加も含めて協力関係に繋がるのが期待されます。

自己 者	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けや対応について、スタッフに常に意識づけを行っている。	毎年接遇マナーの研修があり、管理者は職員に利用者の対応が上から目線にならない事や大きな声を出さない等、気をつけるように伝えていきます。特に入浴時や排泄への支援時には気を付けており、同性介助など気になる方には配慮した対応を心がけています。不適切な対応があれば、管理者はその都度注意喚起しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	メニューを考えていただいたり、着る服を相談したり、レクリエーションへの参加も強制にならないよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時刻や就寝時刻もご本人に声をかけ、意志を尊重できるように支援する。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類に不足がある時や古くなった時にはご家族に連絡する等して支援している。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者に食事準備、後片付けのできる所を手伝っていただいている。	利用者の好みを聞いたり、相談をして献立をたて、献立に沿って買い物に出掛けています。利用者は作業的なものに携わって頂き、米を研いだりささがきを作ったりしています。季節のイベントで、ケーキ作りに挑戦したり、皆がそれぞれ巻き寿司を巻くなど料理を楽しむ事にしています。また、回転すし等外食を楽しむ事もあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事量や水分量を毎日記録し、水分量の少ない時には夜間に摂取していただいたりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご本人ができる所は自分でしていただきながら、朝食前、昼・夕食後に口腔ケアを行っている。		

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間や排泄パターンに合わせてトイレでできる限り排泄していただけるよう支援している。	失敗があっても布の下着とパッドで様子を見ながら、利用者が心地よい状況になるよう支援しています。家族と連絡を取りながらパッドの形を変えたり工夫の中で失敗を減らすようにしています。排泄の記録を基にトイレへ誘導していますが、利用者の意志や仕草を大切に支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を毎日把握、ヨーグルトや水分摂取を心がけられるよう支援している。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	重度化した方はシャワーキャリーの使用の為、午前中に入浴となっているが、希望があればいつでも、また特に便汚染があったとき等はその都度入浴の支援を行っている。	週に3~4回を目途に入浴を支援し、毎日の希望にも対応できるようしています。拒否される方には無理強いせず、タイミングをはかって声かけをしたり、足浴でしてもらうなど工夫をしています。季節にはゆず湯や菖蒲湯で楽しんでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	必要のある人には午前・午後の休息の時間を確保し、元気でリビングで過ごしていただけるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬が変わった時には特に様子観察を心がけ、何の為の薬か把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	画一的な支援にならないよう、個々の人によって違う支援を心がけ、個別対応の時間をできるだけ多く取れるようにしている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物・ゴミ出し・水遣り・散歩等、外出の機会をできる限り作れるよう支援している。	天気の良い日には散歩をしたり、散歩が出来ない時でもプランターの水やりやゴミ出しなど外気に触れるよう心がけています。初詣や花見等、外出行事も楽しみ事として企画されています。花見など行事によっては弁当持参で、家族にも声をかけ出掛けています。	

ニチケアセンター神戸西代(さくら)

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50			○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持する事を希望される場合は、家族管理で持っていていただくようにしている。希望がある時は事務所管理のお金を使って買い物の支援を行っている。		
51			○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や、できる時にはお手紙を書く支援を行っている。		
52	(23)		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掲示物で月ごとに歌等の入替を行っている。玄関に置く生け花を生けていただいたり、希望の季節の花を飾っている。	玄関のアプローチやウッドデッキにはプランターに植えられた花が咲き、季節が感じられています。リビングには様々な行事写真や、小、中学生との体験学習の礼状などが飾られ、利用者は振り返り楽しんでいます。ソファの配置に気をつけ、利用者が思い思いの場所で寛げるよう心がけています。	
53			○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを置いたり、畳に座ったり、色んな所に椅子を配置し、時にはキッチンの前で料理するところを見ておられたりもする。		
54	(24)		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人のベッドや家具をできる限り持ち込んでいただき、馴染みのある空間を作っていたい。	入居時には使い慣れたものを持参頂くよう伝え、利用者にとって居心地の良い設置を家族と共に考えています。利用者の希望によってはカーペットを敷いたり、布団で寝られるなど思い思いの生活になるようにしています。仏壇や、箆笥、籐の椅子、家族写真や好きな作品等が居室に配置され落ち着いた空間となるよう支援しています。	
55			○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下にテープで印を付けたり、トイレを表示したりしている。		